

テラピアの相棒は水耕トマト

食糧安保が叫ばれる中、本誌No64(2000.10.23発行)はアクアポニックスの1例として次のように報じている。

水耕床が濾過機能を兼用

カナダ、ノバスコシア州の首都ハリファックスの東、小さなコミュニティーの静かな道を挟んで寄り添う西チェゼットクックに一目、何の変哲もない温室がある。

9 x 29mのアルミフレームで支えられた内側は、典型的な野菜を育てる、ありふれた雰囲気には満ちている。普通でないのはその中に、魚を飼う大きな水槽があることだ。



▲ 出荷されるトマトを示すマッコリー

これまで遭遇したアクアポニックスの対象植物は全て葉菜類だった。それは主に窒素酸化物を多く含む養殖排水への先入観が導いてきたものかも知れない。

しかし、それとて今ではそれほど驚くにあたらない、養殖と水耕を複合したアクアポニックスは確かに、まだ新しい技術であるが、本誌に情報としてはすでに多国籍の広がりがある。しかし、ここは違っていた。目の前の写真を見て欲しい、収穫はトマトなのだ。



▲ 生後12週間で30~50gに育ったテラピア